

## 令和5年度 収集情報

項目	内容
テーマ	若齢層向け食品衛生に関する普及啓発の在り方検討
要旨	<p>令和4年の都内の食中毒発生件数は104件で、病因物質別順位はアニサキス(62件)、カンピロバクター(19件)、ノロウイルス(6件)となっており、この傾向は近年変わらない。</p> <p>令和4年に都が実施した「食肉の生食等に関する実態調査」によると、生や生に近い状態で食肉料理を食べるグループ(20～30代)の喫食開始時期は、60代と比較して、大学生～小学生の若年期に早まっている。また、「よく食べる」と回答したグループは、他のグループに比べ、喫食時期が比較的早い<sup>(1)</sup>。この調査で、食中毒リスクを高める食習慣が若齢期から始まっていること、それが継続することが示唆されている。食品衛生に関する知識を早いうちから身につけ、リスクを回避することで、食中毒の発生件数の減少につながる可能性がある。</p> <p>東京都が現在実施している若齢層向けの普及啓発として、小学4年生から6年生に向けた「食の安全こども調査隊」と、高校生に向けた「磨け！選択眼」がある。これらの事業に参加した者にアンケートをとったところ、<sup>(2)</sup><sup>(3)</sup>感想は良好であり、食品衛生に関する更なる興味を持つ者も一定数見られた。</p> <p>しかし、現在は若齢層向けに、食の安全について体系的に説明した都のホームページはない。</p> <p>また、これまでの若齢層向けの普及啓発にはリーフレット<sup>(4)</sup>を主に用いてきたが、SNSやホームページなどを活用し、対象年齢に合わせた使いやすく楽しみながら学べる普及啓発手法を考える必要がある<sup>(5)</sup>。</p>
検討の方向性※	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若齢層に目を向けてもらうためにはどんな方法が効果的か。</li> <li>・どんな方法であれば、都のコンテンツの知名度を上げ、若年層に情報を届けることができるか。</li> <li>・どのように優先順位を付けて取り組むべきか。</li> </ul>
添付資料	<p>(1) 食肉の生食等に関する実態調査報告書(令和4年3月)(抄)</p> <p>(2) 令和5年度食の安全こども調査隊アンケート結果</p> <p>(3) 令和4年度「磨け！選択眼」参加生徒へのアンケート結果</p> <p>(4) リーフレット「食中毒ずかん」</p> <p>(5) 食品安全に関する若年層向け啓発に向けて</p>

※情報選定専門委員会における検討結果